

ハローキャリアワーク通信

令和8年4月吉日
教育総合センター
事業推進担当課

株式会社セックによる「宇宙で活躍するロボット大作戦」②

4月11日 土曜日 用賀にあるITソフトウェアの会社である、株式会社セックにおいて「宇宙で必要になるロボットを考えよう！」の2日目の活動が行われました。



教育委員会の担当者からの説明と諸連絡に続いて、株式会社セックの酒井光資さんから、本日のタイムテーブルと前回の振り返り、そして今回のミッションについてのお話がありました。



月面基地で活躍するロボットにどんなミッションを

与えるかをグループで話し合い、解決へ向けて活動していきます。今回は欠席者が出たため、参加者の12名が3グループに分かれてワークを行います。4人組の新たなメンバーになりましたが、一度会っているので意外とすぐに打ち解けて、意見交換が進んでいきました。ロボットがどんな場面でどんな仕事をするか、ロボットの名前は何か、などを話し合いました。その後、手分けをして作業を進めていきました。

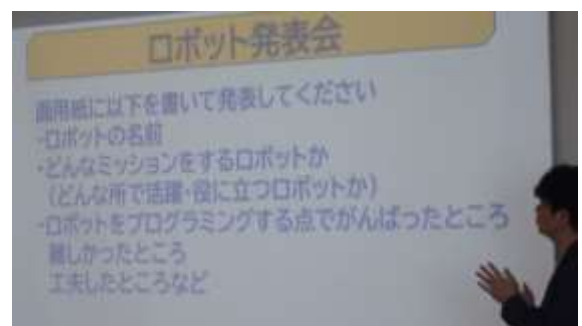


酒井さんが用意してくださった、月面を模したパネルや白いパネルを敷いて、その上をmBot 2(エムボット2)が動きます。超音波センサーを使って障害物の前で止まったり、曲がって避けたり、スピーカーで音を鳴らしたり、前回学んだことを応用してプログラムを組んでいきます。パネルに色テープを貼ってRGBセンサーを使ってのライトレースをする子どもたちもいました。

今回は、希望するグループに酒井さんが「ロボットアーム」を取り付けてくださいました。これを使えば、物をつかんで運んで離す、といった動きも可能です。とはいっても、そう簡単にはできません。何度も何度も失敗を繰り返し、仲間同士で話し合い、試行錯誤の連続です。みんな夢中になって作業に没頭し、あっという間に時間が過ぎていきます。予定していた休憩時間も返上し(トイレ休みはとりました)、ロボット発表会の時間が迫ります。限られた時間の中で、手分けをして発表用紙を仕上げました。



いよいよ発表会がはじまりました。トップバッターはBグループです。ロボッ



ト名は「カンマル」です。ミッションは、サンプルを回収すること。がんばったのはロボットを操作することで、赤いテープを見つけさせるのが難しかったそうです。全員が見ている前で見事にミッションを成功させ、拍手をもらいました。

2番目は、Aグループの1。ロボット名は「トレーサートレーラー」です。指定された道を通って、赤いフィールドに着くと、警報音を鳴らすというミッションです。実演では見事、黒い線を辿り赤いゴールに達して警報音を鳴らすことができました。Aグループの2のロボッ



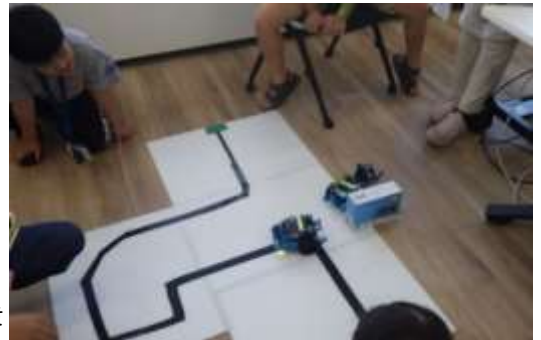
ト名は「ニーボ」です。ミッションは、何かを運んだり、運んだものを目的地に置いたりすることです。練習ではうまくいったのですが、いざ本番では思うように動いてくれません。一旦、次のグループに発表してもらい、その間に調整を行って、最後にはみんなからの応援の受けながら、ミッションを成功させることができました。



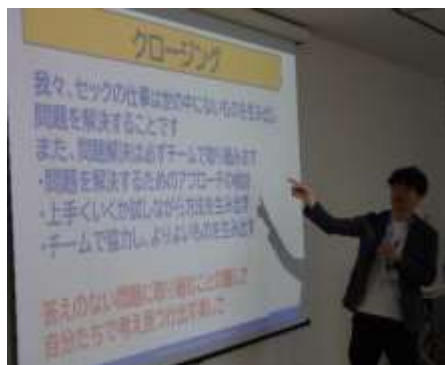
最後のCグループは「スペースロボット1・2」です。緊急避難



ミッションとして、障害物を排除し、安全なルートで基地まで戻ることを目指します。1号機は黒い線の道を辿りながら順調に進んでいきましたが、半分まで来たところのカーブで反転してしまい、振り出しに戻り始めました。特別に神の手を使う許可が出て反転した



地点に戻し、見事ゴールすることができました。ロボットアームを付けた2号機は、力強く障害物を押し出し、みんなからの拍手をもらいました。



こうしてすべてのグループが、今日の成果を発表することができました。他のグループのがんばりを知ったり、途中で仲間を応援する声が上がったりして、とてもよい雰囲気でした。

クローキングでは、酒井さんから「問題解決は、必ずチームで取り組むこと。」「答えのない問題に取り組むことの難しさと、自分で考え、見つけ出す楽しさを感じてほしい。」といったメッセージがありました。みんな今回の体験を振り返り、うなずきながら聞いていました。

最後に子どもたち全員と、セックの社員の皆さまで集合写真を撮りました。充実した活動に、満足そうな笑顔のみんなでした。解散後は、お迎えにいらした保護者の皆さまを室内にお招きし、子どもたちの成果をご覧いただきました。うれしそうに操作し、説明する子どもたちの姿が印象的でした。

